



アートオリンピックで  
アポロン賞を受賞した

川原 善次郎さん

(今泉)



受賞作の「天竜寺蓮池」

とし三月、オリンピック精神に基づき、芸術を通じ平和へのメッセージを世界へ発信する事業として、「美と平和の祭典・アートオリンピックinアテネ」現代日本芸術名作展」が、ギリシアのアテネ市で開催されました。川原さんは、日本画部門で最高の賞であるアポロン賞を見事受賞しました。

川原さんは、新興美術院の会員で、新興展に出した天竜寺蓮池が、アートオリンピック出展作品を選んでいたアテネ市担当者の目にとまり、推薦を受けました。川原さんは、「中学生時代から絵をかくことは好きでしたが、日本画を始めたきっかけは、公民館の成人講座に通うようになってからです。作品の制作は、だいたい仕事が終わってからなので、一日に二〜三時間です。日本画は、一つの場所に五〜六回、薄く重ね塗りをします。濃い色から薄い色に塗りがえていくことによって、絵に奥行きが出てきます。同じ重ね塗りでも、前の色を隠す油絵とは全く異なりますね。また、同じ色を出すのにも、にかわ液の量で個人個人で差が出るので、とてもおもしろいです。今は、神社・仏閣をかくことが多いのですが、今後は、風景や花のような身近な物を描いていきたいですね」と語ってくれました。



「LIM・SC・ちゃっかり娘？」 エアロビクス全国大会初出場

十月三日・四日、福井県あわら市で開催された、第十七回全国スポーツ・レクリエーション祭エアロビクス大会に「LIM・SC・ちゃっかり娘？」が静岡県代表として初出場。県下で初となる、最優秀賞・優秀賞に次ぐ、あわら市民賞を受賞しました。エアロビクスとは、エアロビクスダンスのこと。有酸素運動の一つで、音楽に合わせて体を動かします。大会には、四十五チームが参加し、一チーム三〜五人で構成。年齢は二十代から六十代まで幅広く、技術よりもチームワークのよさや一体感が求められます。

ほかのメンバーは、エアロビクスの魅力について、「体を動かすことでストレス解消につながります」、「左右対称の動きをするので、姿勢がよくなるなどきれいな体づくりができます」、「運動が苦手な人でも踊りが好きなら大丈夫です。競技人口はまだまだ少ないので、これを機にふえてくれるといいですね」と語ってくれました。

有酸素運動…人と話ができるくらいの強度で、軽く汗が出る程度の運動のこと。

リーダーの村上さんは、「昨年は、三人のチームで出場しましたが全国大会へは進めませんでした。十メートル四方のステージをいっぱいに使い踊るので、ある程度の迫力が必要となります。そのため、ことしは四人にふやして参加し、全国大会への切符を手にする事ができました。大会では、男性五人のチームや男女混合チームもありました。中でも一番印象的なのは、六十七歳の女性がいるチーム



「LIM・SC・ちゃっかり娘？」の皆さん